資料１

あま市本庁舎基本設計
第３回基本設計委員会

平成２９年３月３０日

１．第２回基本設計委員会のおさらい

①基本設計委員会の進め方(平成２８年度)

第１回　基本設計委員会
（平成２８年１２月２８日（水））

１　庁舎整備に関する検討経過

２　基本設計委員会と市民ミーティングの役割

３　全体スケジュール

４　関連計画における庁舎の位置付け

５　設計主旨・コンセプト（素案）

６　設計条件の検討・整理すべき事項

７　建物耐震性計画及び敷地造成の考え方（素案）及び検討ポイント

第２回　基本設計委員会
（平成２９年２月１０日（金））

１　第１回基本設計委員会のおさらい

２　設計主旨・コンセプト（案）

３　設計条件の検討・整理すべき事項

４　検討・整理すべき事項の取りまとめ・報告

５　中間取りまとめ（案）

※第2回基本設計委員会までの内容をもとに、中間取りまとめを作成し、パブリックコメントを実施

中間取りまとめの概要
・設計コンセプト
・庁舎機能
・配置検討案
・事業スケジュール

第３回　基本設計委員会
（平成２９年３月３０日（木））

１　第２回基本設計委員会のおさらい

２　中間とりまとめに関する意見募集の結果について

３　設計主旨・コンセプト

４　設計条件の検討・整理すべき事項

５　検討・整理すべき事項の取りまとめ・報告

６　平成２９年度スケジュール

※平成２９年１２月（予定）の最終パブリックコメントにて、完成イメージや配置・平面イメージを含む基本設計の成果をお示しします。

１．第２回基本設計委員会のおさらい

②検討事項に対する第２回基本設計委員会での意見のまとめ

項目	設計条件・課題	検討・整理予定事項	第２回基本設計でいただいたご意見
（１）中枢防災拠点として市民の安全安心を守る庁舎			
○耐震性能が高く浸水への備えも万全な、あらゆる災害に強い庁舎とします。 ○災害時に電気や水などのインフラが寸断されても機能する自立型の庁舎とします。	○中枢防災拠点としての必要機能 ○平常時と非常時の両面において機能や配置の検討が必要 ○広域支援部隊の参集活動空間・中枢防災拠点としての機能維持 ○想定される災害等リスクに対応できる構造等の確保 ○建設地は軟弱で盛土沈下や液状化が想定される ○「防災・活力連携拠点」としての活用機能 ○平時から市民の防災意識を高めるための意識啓発や情報発信が重要	①備えるべき防災機能の検討（ヘリポート、災害対応車両参集対応、ライフライン） ②市地域防災計画の検討 ③浸水リスクの把握・整理 ④想定地震被害（断層、液状化） ⑤敷地造成計画の検討（盛土造成上の耐震工事計画を含む） ⑥建物耐震構造の検討	・敷地及び基幹道路の液状化対策について検討すること。 ・繰り返し起こる地震が及ぼす影響について検討すること。
（２）行政機能の拠点として市民が利用しやすい庁舎			
○多様な交通アクセスへの対応やバリアフリー化など、すべての人が利用しやすい庁舎とします。 ○統合庁舎としてあらゆる手続きがワンストップでスムーズにできる庁舎とします。 ○歩車分離や、使いやすい広場など安全に十分な配慮が行き届いた庁舎とします。	○円滑な来庁アクセス環境の確保 ○東側道路は交通量が多い ○北側、西側、南側道路は、幅員が狭く歩道が未整備 ○駐車場の機能 ○誰にでも利用しやすい庁舎の整備	⑦県道及び外周道路の整備検討 ⑧来庁者アクセス道路の検討 (徒歩、自転車、自家用車、市巡回バス等) ⑨外周道路等の拡幅による面積不足への対応検討 ⑩立体駐車場の検討 ⑪保健センター機能等の重複機能集約 ⑫ワンストップサービスの実現	・バリアフリー法の基準に適した建物とすること。 ・交通量増加を考慮し、周辺への影響を検討すること。

１．第２回基本設計委員会のおさらい

②検討事項に対する第２回基本設計委員会での意見のまとめ

項目	設計条件・課題	検討・整理予定事項	第２回基本設計でいただいたご意見
（３）市民の交流拠点として、すべての人に親しみやすい庁舎			
○市民活動が日動的にできる場を設け、活力やにぎわいが創出される拠点にふさわしい庁舎とします。 ○市民の憩いの場として親しまれるよう、あま市らしさを感じられる庁舎とします。 ○情報発信が行いやすく市民と行政の対話型の運営ができる庁舎とします。	○市民目線からの庁舎機能整備 ○にぎわいの創出と利便性 ○「居住環境維持・向上地」としての土地利用との整合性	⑬交流促進のための庁舎計画の検討 ⑭地区計画内開発として東側集落のまちづくりとの調和 ⑮市民の使いやすさ等を考慮した敷地内レイアウトの検討 ⑯市民活動スペースの設置 ⑰市民目線からの新庁舎に期待する機能・備えるべき機能	・広場の使い方や安全性確保について検討すること。 ・市民にどのようなホスピタリティ空間を提供することができるか検討すること。 ・市民に飲食できるスペース等の設置を検討してほしい。
（４）環境と共生する人にも自然にもやさしい庁舎			
○豊かな自然の恵みを大切に、敷地周辺の環境と調和のとれた庁舎とします。 ○省エネ性能に優れ、自然エネルギーを上手に生かした環境負荷を最小とする庁舎とします。	○周辺環境との調和 ○環境負荷の低減	⑱周囲環境の保全検討 ⑲省エネ・自然エネルギー利用の検討	
（５）ライフサイクルコストに優れた経済的かつ長寿命な庁舎			
○シンプルで無駄がなく、安全性や機能性を重視した庁舎とします。 ○多様化する業務や市民ニーズに迅速かつ適切に対応できる柔軟で機能的な執務スペースを備えた庁舎とします。 ○建設コストから維持管理費の縮減までトータルなライフサイクルコストに優れた庁舎とします。	○行政の効率化・部課間の連携のしやすさのための事務機能の集約 ○建設コストの縮減 ○維持管理コストの縮減 ○メンテナンスのしやすさ	⑳シンプルで無駄がなく、安全性・機能性・効率性を重視した計画の検討 ㉑多様化する業務や市民ニーズに迅速かつ適切に対応できる柔軟で機能的な執務スペースの整備 ㉒建設コスト・維持管理費までのライフサイクルコストに優れた庁舎の検討	・ワンストップサービス実現に向けた組織体制について検討すること。

２．中間とりまとめに関する意見募集の結果について

〇市民の皆様に、新庁舎基本設計における進捗状況をお示しするとともに、幅広いご意見をいただくために、新庁舎整備の中間取りまとめとして、パブリックコメントを実施しました。

「新庁舎整備に関する中間とりまとめ〈あま市役所新庁舎基本設計（中間素案）〉」に関する意見募集（パブリックコメント）の結果について

区　分	内　　容
意見募集の期間	平成29年2月20日（月）～平成29年3月21日（火）
意見を提出された方	４名
意見数	２５件

※内容については、「資料２」を参照

3．あま市本庁舎設計主旨・コンセプト

（1）中枢防災拠点として市民の安全安心を守る庁舎

- 耐震性能が高く浸水への備えも万全な、あらゆる災害に強い庁舎とします。
- 災害時に電気や水などのインフラが寸断されても機能する自立型の庁舎とします。

（2）行政機能の拠点として市民が利用しやすい庁舎

- 多様な交通アクセスへの対応やバリアフリー化など、すべての人が利用しやすい庁舎とします。
- 統合庁舎としてあらゆる手続きがワンストップでスムーズにできる庁舎とします。
- 歩車分離や、使いやすい広場など安全に十分な配慮が行き届いた庁舎とします。

（3）市民の交流拠点としてすべての人に親しみやすい庁舎

- 市民活動が日常的にできる場を設け、活力やにぎわいが創出される拠点にふさわしい庁舎とします。
- 市民の憩いの場として親しまれるよう、あま市らしさを感じられる庁舎とします。
- 情報発信が行いやすく、市民と行政の対話型の運営ができる庁舎とします。
- ホスピタリティあふれる庁舎とします。

（4）環境と共生する、人にも自然にもやさしい庁舎

- 豊かな自然の恵みを大切に、敷地周辺の環境と調和のとれた庁舎とします。
- 省エネ性能に優れ、自然エネルギーを上手に生かした環境負荷を最小とする庁舎とします。

（5）ライフサイクルコストに優れた経済的かつ長寿命な庁舎

- シンプルで無駄がなく、安全性や機能性を重視した庁舎とします。
- 多様化する業務や市民ニーズに迅速かつ適切に対応できる柔軟で機能的な執務スペースを備えた庁舎します。
- 建設コストから維持管理費の縮減までトータルなライフサイクルコストに優れた庁舎とします。

4．基本設計における設計条件の検討・整理すべき事項

（1）中枢防災拠点として市民の安全安心を守る庁舎

項　　目	設計条件・課題	検討・整理事項
○耐震性能が高く浸水への備えも万全な、あらゆる災害に強い庁舎 ○災害時に電気や水などのインフラが寸断されても機能する自立型の庁舎	○中枢防災拠点としての必要機能 ○平常時と非常時の両面において機能や配置の検討が必要 ○広域支援部隊の参集活動空間・中枢防災拠点としての機能維持 ○想定される災害等リスクに対応できる構造等の確保 ○建設地は軟弱で盛土沈下や液状化が想定される ○「防災・活力連携拠点」としての活用機能 ○平時から市民の防災意識を高めるための意識啓発や情報発信が重要	①備えるべき防災機能の検討 （ヘリポート、災害対応車両参集対応、ライフライン） ②市地域防災計画の検討 ③浸水リスクの把握・整理 ④想定地震被害（断層、液状化） ⑤敷地造成計画の検討 （盛土造成上の耐震工事計画を含む） ⑥建物耐震構造の検討

（2）行政機能の拠点として市民が利用しやすい庁舎

○多様な交通アクセスへの対応やバリアフリー化など、すべての人が利用しやすい庁舎 ○統合庁舎としてあらゆる手続きがワンストップでスムーズにできる庁舎 ○歩車分離や、使いやすい広場など安全に十分な配慮が行き届いた庁舎	○円滑な来庁アクセス環境の確保 ○東側道路は交通量が多い ○北側、西側、南側道路は、幅員が狭く歩道が未整備 ○駐車場の機能 ○誰にでも利用しやすい庁舎の整備	⑦県道及び外周道路の整備検討 ⑧来庁者アクセス道路の検討 （徒歩、自転車、自家用車、市巡回バス等） ⑨外周道路等の拡幅による面積不足への対応検討 ⑩立体駐車場の検討 ⑪保健センター機能等の重複機能集約 ⑫ワンストップサービスの実現

4．基本設計における設計条件の検討・整理すべき事項

(3)市民の交流拠点として、すべての人に親しみやすい庁舎

項　　目	設計条件・課題	検討・整理事項
○市民活動が日常的にできる場を設け、活力やにぎわいが創出される拠点にふさわしい庁舎 ○市民の憩いの場として親しまれるよう、あま市らしさを感じられる庁舎 ○情報発信が行いやすく、市民と行政の対話型の運営ができる庁舎 ○ホスピタリティあふれる庁舎	○市民目線からの庁舎機能整備 ○にぎわいの創出と利便性 ○「居住環境維持・向上地」としての土地利用との整合性 ○広場の使い方や安全性確保	⑬交流促進のための庁舎計画の検討 ⑭地区計画内開発として東側集落のまちづくりとの調和 ⑮市民の使いやすさ等を考慮した敷地内レイアウトの検討 ⑯市民活動スペースの設置 ⑰市民目線からの新庁舎に期待する機能・備えるべき機能

(4)環境と共生する人にも自然にもやさしい庁舎

○豊かな自然の恵みを大切に、敷地周辺の環境と調和のとれた庁舎 ○省エネ性能に優れ、自然エネルギーを上手に生かした環境負荷を最小とする庁舎	○周辺環境との調和 ○環境負荷の低減	⑱周囲環境の保全検討 ⑲省エネ・自然エネルギー利用の検討

(5)ライフサイクルコストに優れた経済的かつ長寿命の庁舎

○シンプルで無駄がなく、安全性や機能性を重視した庁舎 ○多様化する業務や市民ニーズに迅速かつ適切に対応できる柔軟で機能的な執務スペースを備えた庁舎 ○建設コストから維持管理費の縮減までトータルなライフサイクルコストに優れた庁舎	○行政の効率化・部課間の連携のしやすさのための事務機能の集約 ○建設コストの縮減 ○維持管理コストの縮減 ○メンテナンスのしやすさ	⑳シンプルで無駄がなく、安全性・機能性・効率性を重視した計画の検討 ㉑多様化する業務や市民ニーズに迅速かつ適切に対応できる柔軟で機能的な執務スペースの整備 ㉒建設コスト・維持管理費までのライフサイクルコストに優れた庁舎の検討

５．検討・整理すべき事項の取りまとめ・報告

広場、駐車場の活用検討

①備えるべき防災機能の検討
(ヘリポート、災害対応車両参集対応、ライフライン)

・時間軸を意識した災害時の対応について

5．検討・整理すべき事項の取りまとめ・報告

広場・駐車場の活用検討

○配置計画に対して、市民ミーティングや基本設計委員会から出た意見の具体的な対応について、以下のとおり平常時と災害時に分けて整理しました。

平 常 時 の 活 用

（1）広場の安全性確保

- 県道側への緩衝緑地、柵の設置

（2）広場の多目的な利用

- イ ベ ン ト 広 場
- レクリエーション広場
- プ レ イ ス ペ ー ス

災 害 時 の 活 用

広場･駐車場の中枢防災拠点としての整備

- 医 療 救 護 活 動
- 緊 急 車 両 参 集
- 支援物資受入･集配
- ボランティア活動受付
- 復 旧 活 動 支 援
- ヘ リ ポ ー ト

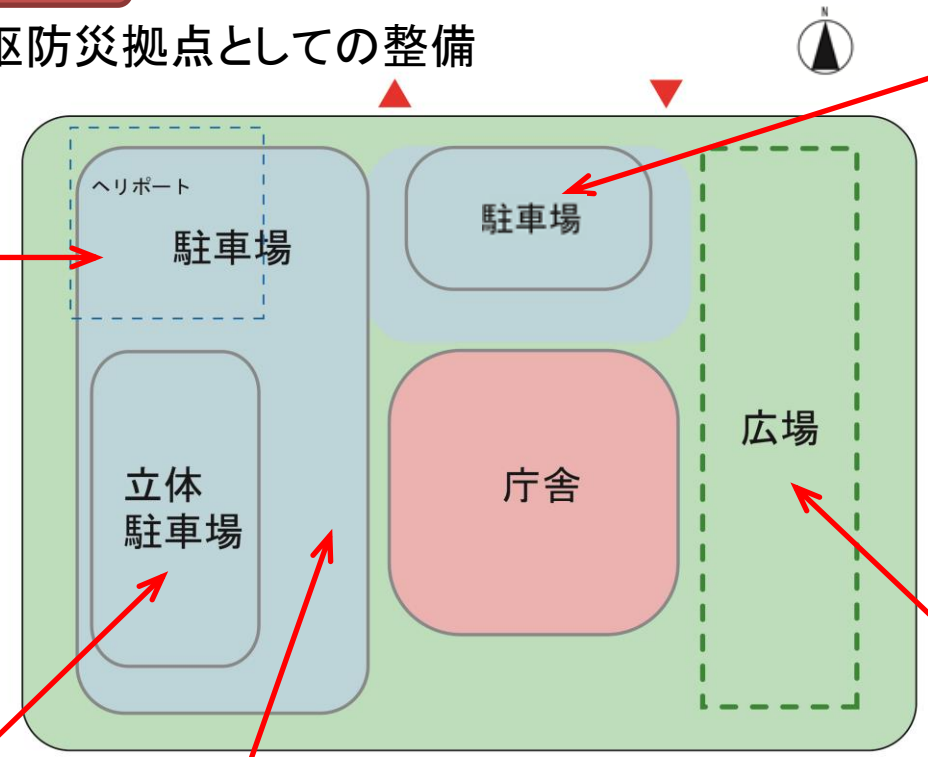
5．検討・整理すべき事項の取りまとめ・報告

広場・駐車場の活用検討

※写真はイメージです。

災害時の活用

広場･駐車場の中枢防災拠点としての整備



ヘリポート

平面駐車場を緊急時のヘリポートとして利用

緊急車両参集

庁舎北駐車場は、緊急車両の参集駐車場として利用

医療救護活動

ボランティア活動受付

広場は、災害直後の医療救護活動スペースとして、またボランティア活動受付、職員等の宿営地として利用

支援物資受入･集配

立体駐車場を災害時の物資保管･集配拠点として利用

復旧活動支援

立体駐車場に隣接したスペースは、災害復旧のための資機材や重機のスペースとして利用

5．検討・整理すべき事項の取りまとめ・報告

広場・駐車場の活用検討

《参考》新庁舎における大規模災害発生時の想定シナリオ

事　　象	出　来　事（被害・状態・影響）→対応		新庁舎での対応
	地震	水害	
台風接近、ゲリラ豪雨		避難指示・勧告等 住民の避難･誘導　排水機稼働	※災害対策本部設置（新庁舎） 〔情報収集、各種想定対応準備〕
■大規模地震･水害発災			
市民の皆様の生命、身体の保護	住宅建物の倒壊 ↓ 身体の負傷・死亡 ↓　住民の救助 大規模火災 消 火 活 動	破堤等による大規模浸水 ↓ 緊急要救助者の確認 ↓ 即時避難の可否 住民の救助（県防災ヘリ･舟艇等）	★災害対策本部設置（新庁舎） 〔被害状況・各避難所情報の収集等〕 ○職員、関係機関等の災害従事者参集（駐車場、広場） ○救護所設置（広場） ○防災対応離着陸場 ○消防等の広域支援部隊等の活動拠点設置（駐車場、広場）
インフラ等の応急復旧	道路の被害 ↓ 緊 急 輸 送 ル ー ト の 確 保 道 路 の が れ き 処 理 ライフライン（電力、水道、下水、ガス、電話）の停止	道路の浸水 ↓ ライフライン（電力、水道、下水、ガス、電話）の停止 排水、堤防応急復旧	○がれき処理、ライフライン復旧等のための資機材仮置場設置（駐車場、広場） ○災害従事者、広域支援部隊のための野営スペース確保、炊出し、仮設トイレ設置（広場）

※は水害時、★は地震時を想定

5．検討・整理すべき事項の取りまとめ・報告

広場・駐車場の活用検討

《参考》新庁舎における大規模災害発生時の想定シナリオ

事　　象	出　来　事（被害・状態・影響）→対応		新庁舎での対応
	地震	水害	
■3日目		排水、堤防応急復旧	
避難生活、社会機能の早期再開	住宅の使用制限 ↓ 避難所生活 ↓ 生活に向けた物資の不足 本部から支援物資配送等 緊急輸送ルートの確保	住宅の浸水、流出 ↓ 避難所生活 ↓ 生活に向けた物資の不足 建　物　が　れ　き　処　理	○給水車等の設置（駐車場、広場） ○全国からの支援物資を各避難所へ提供するための救援物資の中継・分配機能（駐車場） ○災害ボランティア受付場所設置（新庁舎、広場） ○災害ボランティアが利用できる仮設トイレ設置、炊出し等のスペース確保（広場）
生活再建に向けた取り組み、経済活動の早期再開			○建物がれき処理等のための資機材仮置場設置（広場）
■1週間			
		浸水解消	○復旧活動の継続（全体） ○り災証明書の発行（新庁舎）

６．平成２９年度スケジュール

①市民ミーティングの進め方

テーマ:「未来へつなぐ市民のアイデア（仮）」

〇平成28年度の4回の市民ミーティングで、新庁舎に関する自由なアイデアを出していただきました。
〇庁舎の設計（建物整備に関するハード面）で実現できること以外に、開庁してからの運用（ソフト面）を工夫することで実現できることも多くあり、その２つの議論がうまく両立することが重要です。

第5回　平成29年6月11日(日)(予定)

１　庁舎の設計に関すること

これまでの議論で決定した配置案をもとに、庁舎の外観や詳細な、広場や屋外空間の整備について、設計からの提案に基づき、議論を行います。

２　庁舎の運用に関すること

あま市が推進する市民参画・市民協働を新庁舎で実現するため、市民活動団体（NPO法人）など、市民と行政の橋渡しとなる立場の方に参加いただき、行政サービスやソフト面についても議論を始めます。

第6回　平成29年10月頃(予定)

基本設計概要について確認、取りまとめ

基本設計の取りまとめに向けて、レイアウト図などを見ながら、最終案に対する議論を行い、最終まとめを行う。

６．平成２９年度スケジュール

①市民ミーティングの進め方

第5回　市民ミーティング「未来へつなぐ市民のアイデア（仮）」

例えば…以下の内容を設計に反映していくことが重要となります。

※写真はイメージです。

開放スペースと広場を一体的に利用するためのアイデア

市民活動をサポートし、行政と連携するためのアイデア

健康推進や子育てを、市の魅力として発信するアイデア

→基本設計で終了しない、市民参加型の庁舎づくり（ソフト面・ハード面ともに）を、引き続き進めてまいります

６．平成２９年度スケジュール

②基本設計委員会の進め方

第４回　基本設計委員会
（平成２９年８月予定）

１　進捗状況の報告について

２　検討・整理すべき事項の
取りまとめ・報告
⑴　敷地造成計画の検討
⑵　建物耐震構造の検討

３　庁舎の平面計画について

第５回　基本設計委員会
（平成２９年１１月予定）

１　基本設計概要の報告

２　市民ミーティングの報告
⑴　外観・広場の景観について
⑵　市民利用機能について

３　事業スケジュール(案)の報告

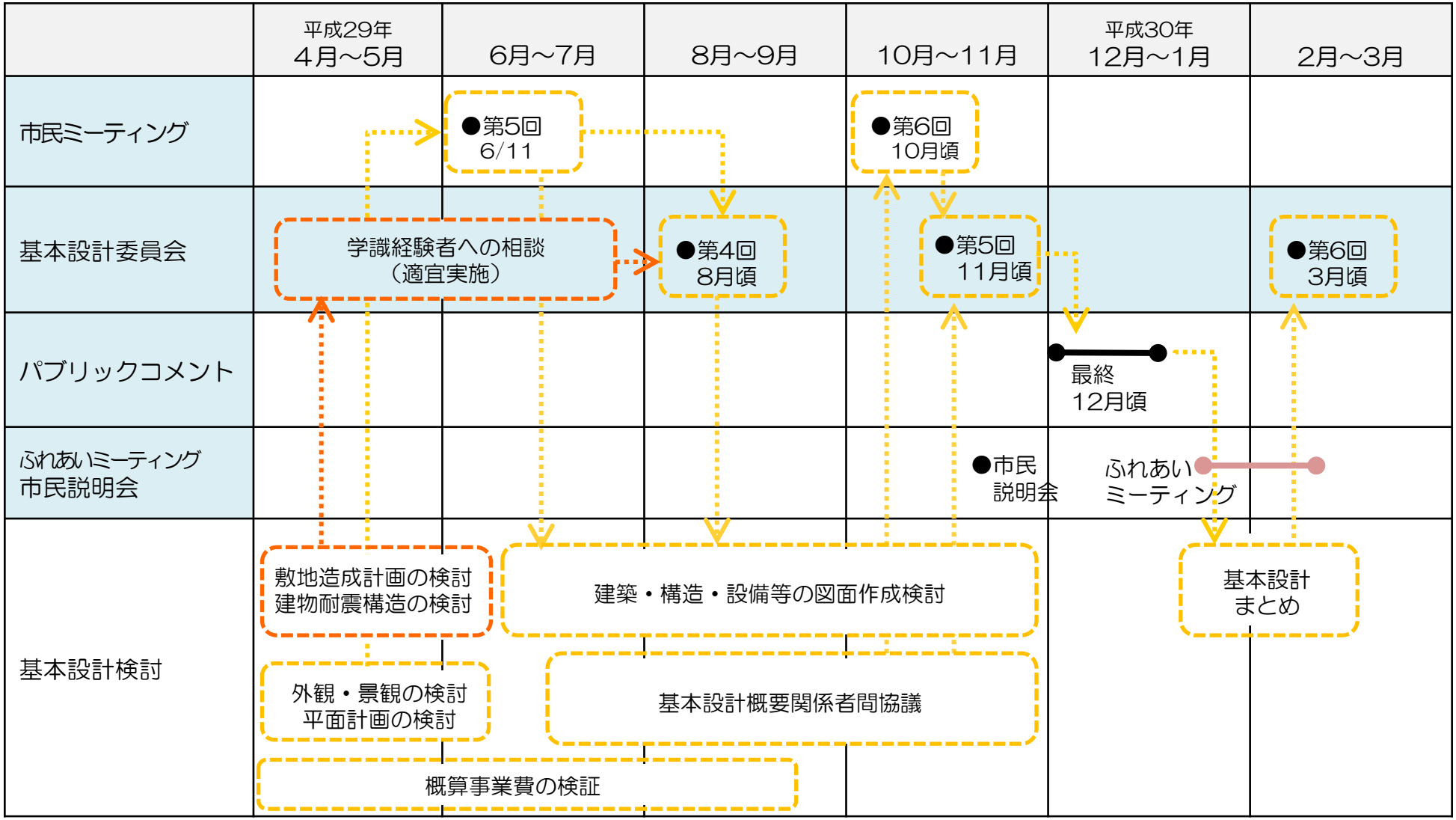
４　発注方式の検討

第６回　基本設計委員会
（平成３０年３月予定）

１　最終パブリックコメントの
結果報告

２　基本設計最終成果物の報告

３　事業スケジュールの報告

6．平成２９年度スケジュール

③全体スケジュール